

OASIS PPS 技術委員会 (PSLX フォーラム PPS 技術部会合同)

日時：6月19日(木) 14:00~18:00

場所：製造科学技術センター第一会議室

参加者：王(富士電機システムズ)、和田(PSLX、テクノラティジャパン)、水谷(日本ユニシス)、川内(プロセス経営研究所)、加藤(技術データ管理協会)、西岡(法政大学)、松川(日立電線)、岡宗(PSLX、製造科学技術センター)

議題

1. 前回議事録

前回議事録の内容を承認した。

1. 日本語仕様書の確認

PPS 仕様の日本語版が完成して WWW にアップロードした。日本語版を委員会として正式に承認した。なお、英語版には編集上のミスがあったが、投票した仕様書のテキストは変更できないので、次のバージョンに反映させることとした。

2. PSLX ホワイトペーパーとプラットフォーム計画の議論

PSLX ホワイトペーパーの概要説明と、PSLX プラットフォーム計画の内容について説明があった。PPS 仕様が、PSLX プラットフォームのベース技術として採用された。PPS 技術委員会として、全面的に協力することとした。

3. 事例提供「バッチ・分散ハイブリッド型生産システムにおける生産スケジューリング課題」(王委員)

工場でどのようにミルクコーヒーを作るかを事例として、プロセス系(バッチ)と分散系を統合するスケジューリングシステムの開発事例の紹介があった。前工程は、投入(バッチ)、溶解(バッチ)、調合(バッチ)、そして、液処理(連続)を經由して後工程が充填(分散)、包装(分散)となる。従来は、2つのスケジューラが別々に行っていたが、それらを統合化した。特に、タンク繰り問題、量によって使用時間が異なる場合などが課題。

4. PPS 実装事例の紹介

(ア) なりゆきスケジューラ

なりゆきスケジューラと ApstoViewer (ガントチャートビューア) を連携させるために、PPS 仕様にそった作業スケジュールの出力フォーマットを出力するように機能追加した。ビューアのモジュールがなかったので、モジュール貸し出しを行い、接続を確認することとした。治工具をビューア上でどのように表記するか、等の疑問点があるが、システム上

は問題なく対応できることが確認できた。

(イ) Excel 連携

ApstoViewer に表示させるデータを、Excel 上で作成し C# のプログラムで自動変換するシステムの照会があった。専用のコンポーネントを利用することで、アプリケーション上の変換のためのプログラムは、10 数行程度で可能であることを確認した。このプログラムのサンプルコードは、PSLX ホワイトペーパー 2 にて公開されている。なお、モジュールは、PSLX プラットフォーム計画に参加する企業には無償で提供させる予定。

次回の会合

日時：8月20日（水）14：00～18：00

場所：製造科学技術センター第一会議室

以上